

令和元年度 第1回さいたま市幼児教育推進協議会 協議概要

1 日時 令和元年5月14日(火)

2 会場 さいたま市役所2階 特別会議室

3 出席委員

(11名)

吉川 はる奈/委員長

小田倉 泉/副委員長

松尾 創

木村 和孝

伊関 誠子

大熊 孝治

目黒 弘子

書上 純子

佐藤 玲子

佐々木 彩子

池田 仁美

事務局

(12名)

佐野 篤資 子ども未来局幼児未来部 部長

三村 悟 子ども未来局幼児未来部 参事

小池 祐司 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 課長

大久保貴至 子ども未来局幼児未来部保育課 課長

高橋 格 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 課長補佐

角田 誠 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 主幹

鯨井 幹夫 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 主査

富山 幸子 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 主査

遠藤 悟史 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 主査

坪井 瞳 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 幼児教育コーディネーター

安東英里佳 子ども未来局幼児未来部幼児政策課 幼児教育コーディネーター

新井 飛鳥 教育委員会学校教育部指導1課 主任指導主事

4 配布資料

- ・令和元年度 第1回 さいたま市幼児教育推進協議会 次第
- ・さいたま市幼児教育推進協議会設置要綱 資料
- ・令和元年度 さいたま市幼児教育推進事業について 資料

5 主な議題と協議内容

(パワーポイント資料をもとに協議会設置の趣旨について説明したのちに協議)

- (1) 令和元年度の幼児教育推進事業について
- (2) さいたま市幼児教育指針について
- (3) さいたま市幼児教育指針等策定部会の設置について

6 主な協議内容(要約)

(1) 令和元年度の幼児教育推進事業について

- ・さいたま市教育ビジョンに「知」「徳」「体」に加え、「コミュニケーション」を加えた背景を伺いたい。
- 平成21年度から取り入れた。人間関係の形成が取れない課題があったので、4つの柱で総合的に目指す児童像を掲げた。
- ・保育者小学校等体験研修に参加した保育士から参加してよかったと聞いている。よい事業だと思う。
- ・園内研修のテーマを「遊びを通じてつながろう」として、地域と連携しながら日々の保育実践を行っている。
- ・保幼小連携の観点からいえば、幼児期にどれだけ遊びから学ぶかで、小学校での成長に関わってくる。幼稚園での勤務経験から、教師の意図的な語りかけにより、深い学びにつながることを実感している。自由保育の遊びの中においても、子どものみの遊びで終わることなく、教師の働きかけにより、生活をもとにした気づきを子どもから引き出していくことが大事ではないか。
- ・小学校教諭は、どの学年担任であったとしても、幼児教育に触れることが大切ではないか。
- ・幼児教育振興協議会などを経て、今回の取組や各事業等の取組につながっていることが素晴らしいと思う。家庭の協力が大切である。家庭教育をする機会が必要である。
- ・保護者として、家庭教育の大切さを感じている。特に、仕事を持つ親としては、園の様子を見たり、一緒に体験したりする機会があることがとてもありがたい。協議会の委員として、保護者へフィードバックする機会を設け、取組を多くの方に知ってもらいたい。
- ・保育士と小学校教員の交流によって、互いの現状を知ることができる。さらに広げていけるとよい。

(2) さいたま市幼児教育指針について

- ・障害のある子が通う施設では、母親が子供を連れ、公園に行くことですら自信が持てずにいる。障害のある子だけでなく、その保護者も支えていくという視点が大切である。障害の有無に関係なく、全ての子どもの育ちを一緒に考えていけるのかと思うと、さいたま市の幼児教育指針がどういったものになるのか楽しみである。
- ・保育士不足と言われている背景に、賃金や人間関係があげられるが、続けている保育士の中には、園長の理念に共感している場合が多いと聞く。今回策定していく幼児教育指針が、今後、保育士を目指すこれからの人にとっての拠り所、人材育成の指針となってほしい。
- ・今回の指針策定にあたっては、「何が大事か」携わる方々の共通理解を明確にしていかななくてはならないのではないか。

- ・実施したアンケート結果を見ると、子どもの育ちの中で保育士は大切な位置にいる。非認知能力を大事にしなが研修等を大事にしていきたい。
- ・保護者として、幼児教育の大切さを感じている。協議会へ参加することで、様々な視点から考えるきっかけとなった。自身の子育てのしかたに迷う時が多い。子を預ける親として、そうした不安を幼稚園の先生に相談したり、頼ったりすることができる、家庭でも安心して子育てができる。園の方針がぶれないと、保護者としても安心する。
- ・「いいものを作って、保護者も巻き込んでいく。」そうしたそれぞれの立場で共通認識をもち、さいたま市としての指針を実働させていってほしい。

(3) さいたま市幼児教育指針等策定部会の設置について

- ・指針策定について進めていくうえでも、より機動力のある会が必要と感じる。さいたま市幼児教育指針等策定部会を設置したいがいかがか。
(委員の同意)
- ・部会長に本協議会副委員長の小田倉氏を推薦するがいかがか。
(委員の同意)

7 教育委員会の幼児教育への取組について（情報提供）

- (1) 夏季保育参観研修
- (2) 5年経験者研修、保育・幼児教育体験研修
- (3) 赤ちゃん幼児ふれあい体験
- (4) 保幼小連携教育研修会

8 備考

- ・傍聴人なし